



**農業  
はじめ  
ました!**

JA熊本市・柑橘部会  
はまくち りょうすけ  
濱口 諒祐さん(22歳・就農3年目)

「くまもとあぐりん」では、毎月2回、新規就農したJAの組合員やJAグループで働く若手職員を訪ね、農業にける思いや仕事のやりがいなどを聞いていきます。  
企画・制作/JAグループ熊本、熊本日日新聞社 業務推進局

Vol.279  
JA熊本市編

# くまもとあぐりん



## 最新の選果システムを導入 若手生産者も増え、産地に活気

熊本市では、春から夏はスイカやメロン、ナス、トマトなど多くの農産物が旬を迎え、秋から冬は西区河内地区を中心に柑橘(かんきつ)類の栽培が盛んです。昨年、高機能選果システムを導入したJA熊本市柑橘選果場は、柑橘類出荷量で全国2位の実績を誇り、若手生産者も続々と誕生。次世代を担う若者たちが、全国有数の産地に活気を与えています。

**祖父から続く農園を守るため  
家族とともに汗を流す若手生産者**

幼い頃からものづくりが好きだった濱口諒祐さん。高校の進路希望調査の際に、果樹栽培を営む祖父に勧められ農業の道を志しました。高校卒業後は、静岡県の「農研機構・果樹茶業研究部門」で2年間、柑橘栽培の研修コースを受講。修了後に実家のある河内町に戻って就農し、祖父母や母とともに果樹栽培に励んでいます。

濱口さんは、約2・6畝の圃(ほ)場でデコポンや温州ミカンなどを栽培。4〜5月は、木の勢いを回復させるために病害虫の防除をしたり、剪定(せんでい)をしたり、品質を上げるためのマルチシートを張ったりするなど、大切な時期です。家族で話し合いながら作業計画を立て、一丸となって栽培に取り組みます。「出荷したミカンの評価が高かったときがうれしい」と笑顔。「選果場に持ち込むだけで箱詰めから販売まで任せられるので安心」と、JAのサポートに感謝します。

営農指導を担当するJA熊本市河内支店・福島樹一さんは、「将来有望な若手生産者の一人。いずれ地域の柑橘栽培のリーダー的な存在になってほしい」と期待を寄せます。



【上】品種変更のために接ぎ木した箇所を確認する濱口さん(右)とJA熊本市河内支店の福島さん



【下】地元の生産者仲間にと誘われて始めたゴルフ。「友人と遠方のコースに出かけるのも楽しみです」



県内JAの情報は  
こちらから



耕そう、大地と地域のみらい。 JAグループ